福田で出合った鳥たち

今回3回目の鳥シリーズで、特に里山で普段あまり目にしない鳥や、飛んでいても姿をじっくり観察できていない鳥などを中心に挙げてみました。双眼鏡などがあれば、また違った行動などが見られて面白いと思うので、挑戦してみてはいかがですか。

イカル

今年は、なぜかよくイカル（アトリ科）を見かける。
20、30 羽が群れで、高い梢（こずえ）に止まっている姿を真下から見上げても、イカルは一生懸命に木の実をついばんで逃げようともしない。写真は撮り放題なのだが、如何せん高過ぎてきれいに撮ることが難しい。（2 月 8 日）

少し首が痛くなりましたが、なんとか頑張りました。

アオゲラ

我が家の前の林に時々、珍しい鳥がやってくる。今回はアオゲラ（キツツキ科）がやってきた。なかなか見応えのある大きなキツツキの仲間であるが、めったに姿を現してくれない。(5 月末)

アオジ

手前はホオジロ科の仲間で、緑化センターで撮った。奥はカワラヒワ。(3 月 23 日)

アトリ

アトリ科の仲間。木の芽や草の実などを食べるが、桜の花をついばんでいる姿を見られるという話を聞くことがある。(3 月 29 日)

キジ

福田では比較的よく目にするキジ科の鳥で、あまり人を恐れないが、足元から突然飛び立ちビックリさせられることがある。ちなみにニワトリもキジ科に属している。(4 月 22 日)

キビタキ

ヒタキ科の一種で薄暗い林の中でも派手な色がよく目立ち、色だけでなく、さえずりもとてもきれいである。(6 月 12 日)

カケス

カラス科でギャー、ギャーと鳴く声を聴くとなんとなく納得してしまう。人の言葉を真似することがあるという。(6 月 9 日)

シメ

アトリ科で、種子を主食にしている。なかなか目にする機会がない。アングルを変えて再挑戦だ。（3 月 2 日）

オオルリ

ヒタキ科のなかでも大型の鳥で、林を歩いていると高い梢から美しい声が聞こえてくるが、ほとんど姿を見ることはない。（5 月 24 日）

トラツグミ

ツグミ科で、昔「ひえーひえー」と気持ちの悪い鳴く声から「鵺（ぬえ）」（伝説の妖怪）に間違えられた可愛そうな鳥で、現在でも空想の怪物に例えられることがあるという。雑木林で落ち葉を掻きわけて餌を探している姿を見かけたことがある。（左　3 月 20 日・右　2 月 23 日）

ミヤマホオジロ

ホオジロ科で、春に山から下りてくる頭が黄色いので他の鳥と区別がしやすい。（3 月 4 日）

カシラダカ

ホオジロ科で、名前の通り、頭の羽が逆立っているため、この名がついた。（2 月 23 日）

赤木通信員